

令和4年度 教員研究生 カリキュラム開発研究 研究成果物

特別支援教室・通級による指導  
自立活動指導目標例集

令和5年3月

東京都教職員研修センター企画部企画課 教員研究生 小川 亮

## 第1章 障害種別早見表

第1節	障害種別早見表の見方	3
第2節	自閉症	4
第3節	情緒障害	5
第4節	学習障害	5
第5節	注意欠陥多動性障害	6

## 第2章 自立活動指導目標例集

第1節	自立活動指導目標例集の見方	7
第2節	指導目標例の活用の仕方	7
第3節	自閉症の指導目標例	8-21
第4節	情緒障害の指導目標例	22-26
第5節	学習障害の指導目標例	27-37
第6節	注意欠陥多動性障害の指導目標例	38-48

## 参考文献

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部） 文部科学省  
（平成30年3月）

特別支援学級・通級による指導 教育課程編成の手引 東京都教育委員会 （令和3年3月）

特別支援教室の運営ガイドライン 東京都教育委員会 （令和3年3月）

## 第1章

### 第1節 障害種別早見表の見方

#### 自立活動6区分27項目の分類と、課題及び指導形態

自立活動6区分27項目の分類。

課題に応じて妥当な指導形態を示しています。

自閉症

自立活動区分	項目	課題	個別指導	小集団指導	ページ
1 健康の保持	(1)	特定の食物などへのこだわり	○		
		特定の衣服などへのこだわり	○		
	(4)	感覚の過敏さやこだわり	○	○	
2 心理的な安定	(1)	自信のなさや、情緒の不安定	○	○	
	(2)	苦手な場所や場面 変化への対応が苦手	○	○	
		予期せぬ出来事への対応や、急な予定変更への対応の難しさ	○	○	
	(3)	自分の障害と困難さへの理解	○		

障害種ごとに、課題を示しています。

## 第2節 自閉症

自立活動区分	項目	課題	個別指導	小集団指導	ページ
1 健康の保持	(1)	特定の食物などへのこだわり	○		8
		特定の衣服などへのこだわり	○		8
	(4)	感覚の過敏さやこだわり	○	○	8
2 心理的な安定	(1)	自信のなさや、情緒の不安定	○	○	9
	(2)	苦手な場所や場面、変化への対応	○	○	9
		予期せぬ出来事や、急な予定変更への対応	○	○	9
	(3)	自分の障害と困難さへの理解	○		9
		自分の得意なことや苦手なことなどへの理解	○	○	10
		苦手なことへの取組	○	○	10
3 人間関係の形成	(1)	人と安定した関係の築き	○	○	10
		人と相互に関わり合うこと	○	○	10
		他者と関わる意欲	○	○	11
	(2)	言葉や表情から相手の立場の推測と関わり方	○	○	11
	(3)	集団の中での状況に応じた行動	○	○	11
		他者の意図や感情を考えた対応	○	○	12
		特定の光や音などへの行動調整	○	○	12
	(4)	雰囲気に合わせて、手順や決まりを理解した集団参加	○	○	12
		会話の背景や経過の類推	○	○	12
		聞き漏らすことによるルール理解	○	○	13
		勝ちたいという意識のコントロール	○	○	13
		参加方法が分からないときの不安	○	○	13
4 環境の把握	(2)	感覚や認知の特性を踏まえた情報の処理	○	○	14
		感覚の過敏さや認知の偏り	○	○	14
		聴覚や触覚の過敏さのための混乱	○		14
		言葉や数の学習	○		14
		認知の特性による苦手な課題の改善	○		15
	(4)	保有する感覚を活用した周囲の状況把握	○	○	15
		得た情報を基にした状況や他者の気持ちの把握	○	○	15
	(5)	新たな認知や行動を進めていくための経験の活用	○		15
		言葉の概念の理解	○		15
5 身体の動き	(1)	筋肉に適度な緊張状態を作り出すこと	○		16
	(3)	書字や描画等の学習に必要な基本動作	○		16
	(5)	両手の協応や目と手の協応動作	○		17
		手足を協調させた動作や微細な運動	○		17
		手指の巧緻性	○		17
		目と手の協応や、姿勢や作業の持続性の自己調整	○		18
		作業のやり方へのこだわり	○		18
6 コミュニケーション	(1)	コミュニケーションをとろうとする意欲	○	○	18
		話を聞く態度	○	○	19
		他者と交流する際のマナーや技能	○	○	19
		意思や要求の伝え方	○	○	19
	(2)	相手の意図を受け止め、自分の考えを伝えること	○	○	19
		様々なコミュニケーション手段の活用	○	○	20
	(3)	語彙や文法体系の習得	○		20
		言語による思考	○		20
	(5)	雰囲気を読むこと	○	○	21
		変化への柔軟で適切な対応	○	○	21
		主体的な関わり	○	○	21

### 第3節 情緒障害

自立活動区分	項目	課題	個別指導	小集団指導	ページ
1 健康の保持	(1)	生活のリズムや生活習慣の形成	○		22
2 心理的な安定	(1)	自信のなさや情緒の不安定	○	○	22
		心理的な緊張や不安	○	○	22
	(2)	様々な場面への対応	○	○	23
		変化への耐性や刺激への反応	○		23
	(3)	心理的な安定	○	○	23
3 人間関係の形成	(1)	他者と相互に関わり合う素地	○	○	24
		人への基本的な信頼感	○	○	24
	(3)	自己肯定感	○	○	24
	(4)	集団活動への参加	○	○	25
6 コミュニケーション	(5)	選択性かん黙	○		25
		選択性かん黙で、意思の交換	○		25
		自分の思いや気持ちの表現	○	○	26

### 第4節 学習障害

自立活動区分	項目	課題	個別指導	小集団指導	ページ
1 健康の保持	(4)	必要な支援を求めること	○	○	27
2 心理的な安定	(1)	自信を失い、情緒が不安定	○	○	27
	(2)	変化する状況への対応	○		27
	(3)	障害への理解と、困難を改善・克服する意欲	○		27
		得意な面を活用した困難さの克服	○	○	28
		苦手なことに立ち向かう意欲	○		28
		苦手意識を軽減し意欲をもつこと	○		28
3 人間関係の形成	(1)	他者との関わり	○	○	29
	(3)	集団の中での状況に応じた行動	○	○	29
	(4)	雰囲気に合わせて、手順や決まりを理解した集団参加	○	○	29
		友達との会話の背景や経過の類推	○	○	29
		聞き漏らすことによるルールを理解	○	○	30
		勝ちたいという意識のコントロール	○	○	30
		参加方法が分からないときの不安	○	○	30
4 環境の把握	(2)	感覚や認知の特性を踏まえた情報の処理	○	○	31
		感覚の過敏さや認知の偏り	○	○	31
		言葉や数の学習	○		31
		認知の特性による苦手な課題の改善	○		31
	(4)	保有する感覚を活用した状況把握	○	○	32
		状況や他者の気持ちを把握した的確な判断や行動	○	○	32
		様々な感覚を用いた書字	○		32
	(5)	既知の概念を活用した、新たな認知や行動	○		32
5 身体の動き	(1)	筋肉に適度な緊張状態作り出すこと	○		33
	(3)	書字、描画等に必要な基本動作	○		33
	(5)	両手の協応や目と手の協応動作	○		33
		手指の巧緻性	○		34
		目と手の協応した動き、姿勢や作業の持続性などの自己調整	○		34
6 コミュニケーション	(1)	コミュニケーションをとろうとする意欲	○	○	35
		話を聞く態度	○	○	35
		他者と交流する際のマナーや技能	○	○	35
	(2)	相手の意図を受け止め、自分の考えを伝えること	○		35

	(3)	語彙や文法体系の習得	○		36
		言葉によって考えを整理し、思考を深めること	○		36
		読んで理解する力	○		36
	(5)	主体的に関わろうとすること	○	○	37
		状況に応じたコミュニケーション	○		37

## 第5節 注意欠陥多動性障害

自立活動区分	項目	課題	個別指導	小集団指導	ページ
1 健康の保持	(1)	整理・整頓などの生活習慣	○		38
	(4)	必要な支援を求めること	○	○	38
2 心理的な安定	(1)	自信を失い、情緒が不安定	○		38
		興奮の静め方	○	○	38
	(3)	障害への理解と、困難を改善・克服しようとする意欲	○		39
		得意な面を活用した困難さの克服	○	○	39
		苦手なことに立ち向かう意欲	○	○	39
		苦手意識を軽減し意欲をもつこと	○		39
3 人間関係の形成	(1)	他者と関わる意欲	○	○	40
	(3)	集団の中での状況に応じた行動	○	○	40
		状況に合わせた行動	○	○	40
	(4)	雰囲気に合わせて、手順や決まりを理解した上で集団に参加	○	○	41
		聞き漏らすことによるルールの理解	○	○	41
		興奮を静める方法	○	○	41
		勝ちたいという意識のコントロール	○	○	42
		参加方法が分からないときの不安	○	○	42
4 環境の把握	(2)	感覚や認知の特性を踏まえた情報処理	○	○	42
		言葉や数の学習	○		42
		認知特性に応じた苦手な課題への取組	○		43
	(4)	保有する感覚を活用した周囲の状況把握	○	○	43
		状況や他者の気持ちを把握した的確な判断や行動	○	○	43
	(5)	既知の概念を基にした新たな認知や行動	○	○	44
5 身体の動き	(1)	筋肉に適度な緊張状態を作り出すこと	○		44
		姿勢保持	○	○	44
	(3)	書字、描画等に必要な基本動作	○		44
	(5)	両手の協応や目と手の協応動作	○		45
		作業への集中力や持続力	○		45
		手指の巧緻性	○		45
		目と手の協応した動き、姿勢や作業の持続性などの自己調整	○		46
6 コミュニケーション	(1)	コミュニケーションをとろうとする意欲	○	○	46
		話を聞く態度	○	○	46
		他者と交流する際のマナーや技能	○	○	47
	(2)	様々なコミュニケーション手段の活用	○	○	47
	(5)	雰囲気を読むこと	○	○	47
		変化への柔軟で適切な対応	○	○	48

## 第2章

### 第1節 自立活動指導目標例集の見方

#### 指導内容及び課題、指導目標例

自閉症

指導内容を記載しています。

自立活動の区分と項目が同一でも、各々の障害種に即した課題を記載しています。

#### 1 健康の保持

(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関すること。

◎内容 特定の食物へのこだわりを軽減したり対応の仕方を身に付けさせたりする指導

○課題 特定の食物などへのこだわり

・指導目標例

- ①個別指導で、食べられる物と食べられない物を整理し、自分の偏食の傾向を理解した上で、好きな理由や嫌いな理由を言葉で伝えることができる。
- ②個別指導で、食べられない物がある際に、量を減らすことを依頼したり、苦手な食べ物を少しずつ食べようとしたり、対応の仕方を理解することができる。
- ③学級で、食べられない物がある際に、理由と対策を伝え自身で対応策を伝えるとともに、食べられない物にも挑戦しようとするすることができる。

### 第2節 自立活動指導目標例の活用の仕方

#### 第1項 指導目標例の段階について

指導目標例は、①から③に向けて、段階的に高次の内容になっている。

#### 第2項 指導目標例の構造について

指導目標例の③は、児童の課題が解決されたことを想定した内容になっており、この目標を達成したということは、課題が解消したことを意味する。

#### 第3項 特別支援教室教育課程第2表の目標への転載について

第2項に示したとおり、指導目標の③は、課題に対する最終的な目標を想定しているため、教育課程の目標に転載する場合は、③の目標を基本にして、文章前段の「場面や対象」を省くとともに、適宜児童・生徒の実態に即して一部内容を変更する等の必要がある。

#### 第4項 個別指導計画の目標への転載について

第2項に示したとおり、指導目標の③が最終的な目標となっているため、個別指導計画の転載にあたっては、指導目標①及び②を基本にして、児童・生徒の実態に即して一部内容を変更する等の必要がある。

#### 第5項 個別指導と小集団指導の類別について

各項目の指導にあたって参考文献を基に、個別指導と小集団指導を指定しているが、推奨であって、児童・生徒の実態に即して弾力的に運用する必要がある。

#### 第6項 自立活動6区分27項目の中で、未記載の項目があることについて

本資料は「特別支援学級・通級による指導 教育課程編成の手引」東京都教育委員会（令和3年3月）を準拠としており、項目を対応させているため。

## 1 健康の保持

(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関すること。

◎内容 特定の食物へのこだわりを軽減したり対応の仕方を身に付けさせたりする指導

○課題 特定の食物などへのこだわり

・指導目標例

- ①個別指導で、食べられる物と食べられない物を整理し、自分の偏食の傾向を理解した上で、好きな理由や嫌いな理由を言葉で伝えることができる。
- ②個別指導で、食べられない物がある際に、量を減らすことを依頼したり、苦手な食べ物を少しずつ食べようとしたり、対応の仕方を理解することができる。
- ③学級で、食べられない物がある際に、理由と対策を考え伝えとともに、食べられない物に挑戦しようとするすることができる。

◎内容 特定の衣服へのこだわりを軽減したり対応の仕方を身に付けさせたりする指導

○課題 特定の衣服などへのこだわり

・指導目標例

- ①個別指導で、自分が着られる服と着られない服を整理し、その理由を考え、改善しようとする意欲をもつことができる。
- ②個別指導で、季節に合った衣服や自分に適した素材やサイズ、身だしなみの大切さを理解し、着られる物を増やそうとする気持ちをもつことができる。
- ③学級で、季節に合った衣服や自分に適した素材やサイズの服を着て、身だしなみの大切さを理解しながら生活することができる。

(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること。

◎内容 感覚の過敏さやこだわりがあることについて、自分から別の場所に移動したり、音量の調整や予定を説明してもらうことを他者に依頼したりするなど、自らの刺激の調整を行い、気持ちを落ち着かせることができるようにする指導

○課題 感覚の過敏さやこだわり

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と自己の過敏さやこだわりについてまとめるなどして、理解することができる。
- ②個別指導や小集団指導で、自分から別の場所に移動することや音量調整を依頼すること、予定の説明をお願いすることなど、自身の過敏さやこだわりについての対応の仕方を理解し、実行することができる。
- ③学級で、自己の過敏さやこだわりについて、自ら刺激の調整を行い、気持ちを落ち着かせることができる。



## 2 心理的な安定

### (1) 情緒の安定に関すること。

◎内容 失敗経験から自信を失ったり、情緒が不安定になりやすかったりする児童・生徒に、自分のよさに気付かせたり、自信がもてるように励ましたりして活動への意欲を促す指導

○課題 自信のなさや、情緒の不安定

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と自分の良さを考え、自分の良さを受け入れ生かす場面を考えることができる。
- ②個別指導や小集団指導で、失敗した経験を前向きに捉え直す方法や、情緒が不安定になった際に気持ちを落ち着ける方法などを知り、実行しながら学習や活動に参加することができる。
- ③学級で、失敗したり情緒が不安定になったりした際に、気持ちを落ち着けて学習や活動に参加することができる。

### (2) 状況の理解と変化への対応に関すること。

◎内容 場所や場面の状況を理解して心理的な抵抗を軽減したり、変化する状況を理解して適切に対応したりできるようにする指導

○課題 苦手な場所や場面、変化への対応

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と自分の苦手な場所や場面、変化への対応の苦手さなどを整理し、慣れるための対応策を考えるとともに、適切な対応の仕方を理解することができる。
- ②個別指導や小集団指導で、苦手な場所や場面、変化する状況における支援の求め方や対処の仕方を身に付け、実際に活用することができる。
- ③学級で、苦手な場所や場面、変化する状況への対処の仕方を活用し、適切に対応することができる。

◎内容 児童・生徒が、予期せぬ出来事や急な予定変更に対応することが難しい場合には、予測される事態や状況を知ったり、事前に体験したりして、急な予定変更等に対応できるようにする指導

○課題 予期せぬ出来事への対応や、急な予定変更への対応

・指導目標例

- ①個別指導で、予期しない出来事や急な変更など、日常生活の中での自身が困難と感じる具体的な状況を理解し、改善する意欲をもつことができる。
- ②個別指導で、日常の生活の中で起こり得る事態や状況、急な変更などを想起し、ロールプレイ等をして、適切な対応の仕方を知り、身に付けることができる。
- ③学級で、予期しない出来事や急な予定変更に対応することができる。

### (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。

◎内容 自分の障害の状態を理解したり受け止めたりして、困難を改善・克服しようとする意欲をもたせる指導

○課題 自分の障害と困難さへの理解

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と日常生活における自身の障害由来の困難さを考え、理解するとともに受け入れることができる。
- ②個別指導で、自身の障害由来の困難を改善・克服しようとする意欲をもつとともに、困難に対する対処の仕方を身に付けることができる。
- ③学級で、困難な出来事が起きた際に、改善・克服しようとする事ができる。

◎内容 自分の得意な面と苦手な面を知り、得意な面を活用することで困難を克服することができるという経験をさせる指導

○課題 自分の得意なことや苦手なことなどへの理解

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と自分の得意なことや苦手なことを考え、得意なことの活用の仕方を広く知ることができる。
- ②個別指導や小集団指導で、困難な出来事に対する自分の得意なことの生かし方を考え、学習や活動する場面で活用することができる。
- ③学級で困難な出来事が起きた際に、克服しようとする事ができる。

◎内容 成功体験を積み重ねることで自分に自信をもてるようにし、苦手なことにも積極的に立ち向かう意欲をもたせる指導

○課題 苦手なことへの取組

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と自分の苦手なことに対してスモールステップで取り組み、成功体験を積むことができる。
- ②個別指導や小集団指導で、自分の苦手なことに取り組み、成功体験を積み重ねることで自信をもつことができる。
- ③学級で、苦手なことにも積極的に取り組もうとすることができる。

### 3 人間関係の形成

(1) 他者とのかかわりの基礎に関すること。

◎内容 直接的に指導を担当する教師を決めるなどして、教師との安定した関係を形成して相互に関わり合う素地を作る指導

○課題 人と安定した関係の築き

・指導目標例

- ①個別指導で、人と関わる際の言葉遣いや態度等を理解し、巡回指導教員に対して活用し、安定した関係を築くことができる。
- ②個別指導や小集団指導で、相手を意識した言葉遣いや態度等を活用し、教員や仲間と安定した関係を築くことができる。
- ③学級で、相手を意識した言葉遣いや態度等を活用し、安定した人間関係を築くことができる。

◎内容 やり取りの方法を大きく変えずに繰り返し指導するなどして、そのやり取りの方法を定着させるようにし、相互に関わり合う素地を作る指導

○課題 人と相互に関わり合うこと

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員とロールプレイ等をするなどして、あらゆる場面における人との関わり方を学び、身に付けることができる。
- ②個別指導や小集団指導で、教員や仲間と関わる活動等で、身に付けた人との関わり方を活用することができる。
- ③学級で、学習や活動等をする際に、教員や仲間と相互に関わることができる。

◎内容 人と関わる楽しさや心地よさを味わえるような指導や、他者と関わりたいという意欲をもたせる指導

○課題 他者と関わる意欲

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と興味や関心がある会話をしたり、学習を通して認められたりすることなどを通して、人と関わる楽しさを実感できる。
- ②個別指導や小集団指導で、教員や仲間と関わる学習から、人に認められたり、人を認めたりすることなどを通して、人と関わる楽しさや心地良さを実感できる。
- ③学級で、意欲をもって他者と関わろうとすることができる。

(2) 他者の意図や感情の理解に関すること。

◎内容 児童・生徒が、生活の様々な場面で相手の言葉や表情などから立場や考えを推測できるようにしたり、相手と関わる際の具体的な方法を身に付けさせたりする指導

○課題 言葉や表情から相手の立場の推測と関わり方

・指導目標例

- ①個別指導で、生活場面における相手の言葉や表情等から考えや気持ちを推測する学習を通して、相手の立場を知ろうとすることができる。
- ②個別指導や小集団指導で、場面における相手の考えや気持ちを推測し、相手の考えや気持ちに即した関わり方を理解することができる。
- ③学級で、場面における相手の考えや気持ちを理解しながら、適切に関わることができる。

(3) 自己の理解と行動の調整に関すること。

◎内容 自分の得意なことや苦手なこと、自分の行動の特徴などを理解させ、集団の中で状況に応じた行動ができるようにする指導

○課題 集団の中での状況に応じた行動

・指導目標例

- ①個別指導で、自分の得手不得手や集団の中での自分の行動の特徴など、自分自身について理解することができる。
- ②個別指導や小集団指導で、集団の中での様々な状況に応じた行動の仕方について理解するとともに、集団に合わせて自己の行動を調整しようとするすることができる。
- ③学級で、自己の行動を調整しながら、集団の中で状況に応じた行動ができる。

◎内容 児童・生徒が、体験的な活動を通して自分の得意なことや苦手なことを理解し、他者の意図や感情を考えて、対応することができるようにする指導

○課題 他者の意図や感情を考えた対応

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と自分の得手不得手や、身近にいる人の得手不得手等を考えることを通して自分と他者との相違を知り、自分と他者の考えや気持ちが違うことを理解できる。
- ②個別指導や小集団指導で、日常生活の様々な場面や状況における他者の意図や感情を考え、関わり方や対応の仕方を身に付けることができる。
- ③学級で、他者の意図や感情を考え、相手意識をもって関わるることができる。

◎内容 児童・生徒が、特定の光や音などにより混乱し、行動調整が難しくなる場合に、そのような光や音に対して少しずつ慣れたり、それらの刺激を避けたりすることができるようにする指導

○課題 特定の光や音などへの行動調整

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と自分の苦手な光や音と、その際の感情を考えながら、自分について理解を深めることができる。
- ②個別指導や小集団指導で、苦手な光や音に少しずつ慣れるとともに、感じた際の避け方などを身に付けることができる。
- ③学級で、苦手な光や音を感じた際に、慣れようとする気持ちをもったり、身に付けた避け方を実行したりするなど、自己の行動を適切に調整しようとするすることができる。

(4) 集団への参加の基礎に関すること。

◎内容 集団の雰囲気に合わせて、集団に参加するために必要な手順や決まりを理解したりして、遊びや集団活動などに積極的に参加できるようにする指導

○課題 雰囲気に合わせ、手順や決まりを理解した集団参加

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と場面や状況における集団の雰囲気を考えるとともに、集団に参加するために必要な手順や決まりを理解することができる。
- ②小集団指導で、集団の雰囲気に合わせ、集団に参加するために必要な手順や決まりを守り、学習や活動などに参加することができる。
- ③学級で、集団の雰囲気に合わせ、集団に参加するために必要な手順や決まりを守り、遊びや集団活動などに参加することができる。

◎内容 児童・生徒が、友達との会話の背景や経過を類推することが難しいために集団に積極的に参加できない場合に、日常的によく使われる友達同士の言い回しや分からないときの尋ね方等を身に付けさせる指導

○課題 会話の背景や経過の類推

・指導目標例

- ①個別指導で、友達との日常生活における会話の内容について、背景を類推することや、友達の言い回しなどが分からないときの尋ね方などを身に付けることができる。
- ②個別指導や小集団指導で、相手の話す内容の背景を類推したり、分からない言い回しがあった際に尋ねたりするなどして、集団の学習や活動等に参加することができる。
- ③学級で、友達と会話をする際、相手の会話の内容にある背景を類推するとともに、分からない言い回しがあった際は尋ねるなどしながら集団に参加することができる。

◎内容 児童・生徒が、遊びのルールを聞き漏らしたり、最後まで聞かずに遊び始めたりしてしまう場合に、ルールを少しずつ段階的に理解できるようにさせる指導

○課題 聞き漏らすことによるルールの理解

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と聞く学習を通して、説明や指示を最後まで聞く態勢を身に付けるとともに、内容を理解することができる。
- ②小集団指導で、学習や活動をする際の教員の全体に向けた説明や指示を聞き、内容や決まりを理解しながら取り組むことができる。
- ③学級で、学習や活動をする際の教員の全体に向けた説明や指示を聞き、内容や決まりを理解しながら取り組むことができる。

◎内容 児童・生徒が、勝ちたいという意識からルールを守ることができない場合に、適切な行動を身に付けさせる指導

○課題 勝ちたいという意識のコントロール

・指導目標例

- ①個別指導で、勝負にこだわる自分の特性に気付き、勝った際や負けた際の適切な言動を理解できる。
- ②個別指導や小集団指導で、勝負がかかる学習や活動をするときに自身の特性に気付くとともに、勝敗が付いた際に適切に行動することができる。
- ③学級で、勝負がかかる学習や活動をするときに自身の特性に気付き、勝敗が付いた際に適切に行動することができる。

◎内容 遊びへの参加方法が分からないときの不安を鎮める方法を身に付けさせる指導

○課題 参加方法が分からないときの不安

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と集団の活動への参加方法が分からないときの解決の仕方を考え、身に付けることができる。
- ②個別指導や小集団指導で、集団の活動への参加方法が分からないときの解決の仕方を実行し、不安を鎮めながら参加できる。
- ③学級で、集団の活動への参加方法が分からないときの解決の仕方を実行し、不安を鎮めながら参加できる。



## 4 環境の把握

(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること。

◎内容 児童・生徒一人一人の感覚や認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるようにする指導

○課題 感覚や認知の特性を踏まえた情報の処理

・指導目標例

- ①個別指導で、自分の感覚や認知の特性とともに、入ってくる情報の適切な処理の仕方を理解することができる。
- ②個別指導や小集団指導で、自分の感覚や認知の特性を踏まえ、入ってくる情報を適切に処理することができる。
- ③学級で、自分の感覚や認知の特性を踏まえ、入ってくる情報を適切に処理することができる。

◎内容 児童・生徒一人一人の感覚の過敏さや認知の偏りなどの特性を踏まえ、児童・生徒の興味が広がるような指導

○課題 感覚の過敏さや認知の偏り

・指導目標例

- ①個別指導で、自分の感覚の過敏さや認知の偏りなどの特性を理解できる。
- ②個別指導や小集団指導で、自分の感覚の過敏さや認知の偏りなどの特性を踏まえ、場面や状況における適切な対応の仕方について、理解することができる。
- ③学級で、自分の感覚の過敏さや認知の偏りなどの特性を踏まえ、場面や状況に対して適切に対応することができる。

◎内容 児童・生徒が、聴覚や触覚の過敏さのために不快感を抱いたり、それらの刺激が強すぎたり突然であったりすることで混乱状態に陥ってしまったりする場合に、不快である音や感触などを自ら避けたり、慣れていくことができるようにする指導

○課題 聴覚や触覚の過敏さのための混乱

・指導目標例

- ①個別指導で、自分の聴覚や触覚の過敏さの特徴を知るとともに、強い刺激を受けた際の自分の反応について理解することができる。
- ②個別指導で、不快である音や感触などの避け方を知り、慣れようとすることができる。
- ③学級で、不快である音や感触があった際に、身に付けた避け方を実行するとともに、慣れようとする可以尝试。

◎内容 児童・生徒の、個々の認知特性に合わせた言葉や数の学習の指導

○課題 言葉や数の学習

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と言葉や数の学習が苦手な自分の認知特性を考え、理解することができる。
- ②個別指導で、自分の認知特性に合わせた言葉や数の学習の仕方を身に付けることができる。
- ③学級で、自分の認知特性に合った言葉や数の学習の仕方を実行し、学習することができる。

◎内容 認知の特性に応じて、苦手な課題を少しずつ改善したり、得意な方法を積極的に活用できるようにしたりする指導

○課題 認知の特性による苦手な課題の改善

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と認知の特性による自分の苦手な課題を考え、理解することができる。
- ②個別指導で、認知の特性による苦手な課題に対する自分に適した方法を考え、身に付けることができる。
- ③学級で、認知の特性による苦手な課題に対して、身に付けた自分に適した方法を活用し、学習や活動に取り組むことができる。

(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること。

◎内容 視覚、聴覚、触覚などの保有するいろいろな感覚を活用して周囲の状況を的確に把握することができるようにする指導

○課題 保有する感覚を活用した周囲の状況把握

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と視覚や聴覚、触覚など保有する感覚を活用して周囲の状況を把握する方法を考え、身に付けることができる。
- ②個別指導や小集団指導で、保有する感覚を活用して周囲の状況を把握するとともに、状況に応じた行動の仕方を知り、実行することができる。
- ③学級で、保有する感覚を活用して周囲の状況を把握するとともに、状況に応じた行動ができる。

◎内容 感覚を総合的に活用して得られた情報から、周囲の状況や他者の気持ちを把握し、的確な判断や行動ができるようにする指導

○課題 得た情報を基にした状況や他者の気持ちの把握

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と視覚や聴覚、触覚などの感覚を総合的に活用した情報の得方を学習し、身に付けることができる。
- ②個別指導や小集団指導で、感覚を総合的に活用した身に付けた情報の得方を活用し、周囲の状況や他者の気持ちを把握し、的確な判断や行動の仕方を理解できる。
- ③学級で、感覚を総合的に活用した情報の得方を活用し、周囲の状況や他者の気持ちを把握し、的確な判断や行動ができる。

(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。

◎内容 経験によって作り上げてきた概念を、自分が新たに認知や行動を進めていくために活用することができるようにする指導

○課題 新たな認知や行動を進めていくための経験の活用

・指導目標例

- ①個別指導で、興味がある事柄に注意が集中し学習や活動の全体像が把握できないなど自分の特性を理解した上で、対処の仕方を考え身に付けることができる。
- ②個別指導で、学習や活動の様々な場面や状況において、順序に従うなど全体を把握する方法を学習し、身に付けることができる。
- ③学級で、様々な場面や状況において、順序に従うなどして全体を把握し、学習や活動に取り組むことができる。

◎内容 言葉の概念の理解が困難な児童・生徒に、様々な場面で見たり触ったりする体験的な活動と言葉を関連付けながら基礎的な概念の形成を図るようにする指導

○課題 言葉の概念の理解

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と「もう少し」や「そのくらい」、「大丈夫」など、意味内容に幅のある抽象的な表現についての理解を広げることができる。
- ②個別指導で、巡回指導教員と学級での指示の内容や作業、手順、時間の経過等を視覚的に把握できる教材・教具や手順表等を活用しながら、順序や時間、量の概念などを形成することができる。
- ③学級で、説明や指示があった際の抽象的な表現を理解するとともに、順序や時間、量の概念等を活用し、適切に学習や活動に取り組むことができる。

5 身体の動き

(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。

◎内容 全身又は身体各部位の筋肉に適度な緊張状態を作り出せるようにする指導

○課題 筋肉に適度な緊張状態を作り出すこと

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得に関する学習を通して、筋力の維持や強化を図ることができる。
- ②個別指導で、巡回指導教員と姿勢保持や姿勢変換、移動、四肢の粗大運動と微細運動など、基本動作を行うことができる。
- ③学級で、臥位や座位、立位など、適切な姿勢保持をすることができる。

(3) 日常生活に必要な基本動作に関すること。

◎内容 書字、描画等の学習に必要な基本動作を身に付けさせることができるようにする指導

○課題 書字や描画等の学習に必要な基本動作

・指導目標例

- ①個別指導で、書字や描画等の学習のための基本動作である、姿勢の保持や移動、上肢の諸動作を習得するとともに、座位や立位を保持しながら、上肢を十分に動かすことができる。
- ②個別指導で、安定した座位を確保しながら両腕を体の前に伸ばすことや身体の正面で両手を合わせ、指を握ったり開いたりすること、身体のほとんどの部位へ指先が届くこと、手の動きを目で追うことなど、書字や描画等の学習に必要な基本動作ができる。
- ③学級で、姿勢を保持しながら書字や描画等の学習に取り組むことができる。



(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。

◎内容 両手の協応や目と手の協応動作が円滑に遂行できるようにする指導

○課題 両手の協応や目と手の協応動作

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と手遊びやビーズなどを仕分ける活動や、ひもにビーズを通す活動などに取り組み、両手や目と手の協応動作を高めようとすることができる。
- ②個別指導で、巡回指導教員と両手や目と手の協応動作を高めるための、興味や関心のもてる内容や課題を考え工夫し、取り組むことができる。
- ③学級で、両手の協応や目と手の協応動作が必要な学習や活動に取り組む際に、円滑に遂行することができる。

◎内容 児童・生徒が、手足を協調させて動かすことや微細な運動をすることに困難が見られる場合に、目的に即して意図的に身体を動かしたり、段階的に高度な動きを身に付けさせたりする指導

○課題 手足を協調させた動作や微細な運動

・指導目標例

- ①個別指導で、手足を協調させて動かすことなど、身体を動かす活動に取り組み、手足の簡単な動きができる。
- ②個別指導で、手指の巧緻性を高めることを目的に道具等を使って手指を動かす体験を積み重ね、一つの動作を身に付けることから始め、身に付けた一つ一つの動作をつなげ、連続して行うことができる。
- ③学級で、教科等の学習の際に、目と手の協応をした動きや姿勢、作業の持続性などについて、自ら調整や改善を図ろうとすることができる。

◎内容 興味をもっていることを生かしながら道具等を使って手指を動かす体験を積み重ね、巧緻性を高められるようにする指導

○課題 手指の巧緻性

・指導目標例

- ①個別指導で、興味や関心があることを生かしながら、道具等を使って手指を動かす体験を積み重ね、手指の巧緻性を高めようとするすることができる。
- ②個別指導で、手指について一つずつ動作を身に付け、徐々に身に付けた一つ一つの動作をつなげて連続して行うことができる。
- ③個別指導で、手指について手本となる動作や自分の動作を映像で確認するなどして、自ら調整や改善を図ることができる。

◎内容 障害の状態によって、身体の動きの面で、関係する教科等の学習との関連を図り、目と手の協応した動き、姿勢や作業の持続性などについて、自己調整できるようにする指導

○課題 目と手の協応や、姿勢や作業の持続性の自己調整

・指導目標例

- ①個別指導で、興味や関心があることを生かしながら、道具等を使って手指を動かす体験を積み重ね、手指の巧緻性を高めようとすることができる。
- ②個別指導で、教科等の学習をする上で、必要な目と手の協応した動きや、姿勢や作業の持続性などについて、自己調整する方法を理解することができる。
- ③学級で、教科等を学習する上で、必要な目と手の協応した動きや、姿勢や作業の持続性などについて、自己調整することができる。

◎内容 児童・生徒に、作業のやり方へのこだわりを和らげたり、指導者の示す手本を模倣しようとする気持ちを育てたりする指導

○課題 作業のやり方へのこだわり

・指導目標例

- ①個別指導で、一つの作業についていろいろな方法を経験して、作業のやり方へのこだわりを和らげることができる。
- ②個別指導で、巡回指導教員と良好な人間関係を形成し、主体的に教員の示す手本を模倣しようとすることができる。
- ③学級で、自分のやり方にこだわらず、教員の示す手本などを模倣して、学習や活動に取り組むことができる。

## 6 コミュニケーション

(1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること。

◎内容 人とやり取りする楽しさを味わわせ、コミュニケーションをとろうとする意欲を育てる指導

○課題 コミュニケーションをとろうとする意欲

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と自分の興味や関心のある活動をする中で、人とやり取りをすることや人と通じ合う楽しさを感じることができる。
- ②個別指導や小集団指導で、教員や友達との相互的にやり取りをする基礎的なコミュニケーションの方法を知り、身に付けることができる。
- ③学級で、身に付けた基礎的なコミュニケーションの方法を活用し、教員や友達と相互的なやり取りをすることができる。

◎内容 話す人の方向を見るなどの、話を聞く態度を身に付けさせる指導

○課題 話を聞く態度

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員の言葉掛けに対して視線を合わせ、聞く学習などを通して、聞く姿勢を身に付けることができる。
- ②小集団指導で、教員の全体に向けた説明や指示を聞き理解した上で、学習や活動に取り組むことができる。
- ③学級で、教員の全体に向けた説明や指示を聞き理解した上で、学習や活動に取り組むことができる。

◎内容 他者と相互交流する際に必要なマナーや技能等の基礎的な力を身に付けさせる指導

○課題 他者と交流する際のマナーや技能

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と場面や状況における他者と交流する際に必要なマナーを理解し、基礎的な力を身に付けることができる。
- ②小集団指導で、身に付けた基礎的なマナーについての知識を活用し、他者と交流することができる。
- ③学級で、身に付けたマナーについての知識を活用し、学級の生活で適切に他者と交流することができる。

◎内容 児童・生徒が、望ましい方法で意思や要求などが伝わる経験を積み重ねられるようにする指導

○課題 意思や要求の伝え方

・指導目標例

- ①個別指導で、興味のある物を手にしたいという欲求が勝り、所有者に確認しないまま物を使うなど、不適切な自分の意思の表出や要求の伝達に気づき、適切な方法を理解することができる。
- ②個別指導や小集団指導で、望ましい意思や要求の伝える方法を知り、身に付けることができる。
- ③学級で、身に付けた望ましい意思や要求の伝える方法を活用し、他者と関わるることができる。

(2) 言語の受容と表出に関すること。

◎内容 話し言葉や絵・記号・文字等を用いて、相手の意図を受け止めたり、自分の考えを伝えたりする力を身に付けさせる指導

○課題 相手の意図を受け止め、自分の考えを伝えること

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と、絵や写真などの視覚的な手掛かりを活用しながら相手の話を聞くことや、メモ帳やタブレット型端末等を活用して自分の話したい内容を相手に伝えることなど、自分に適したコミュニケーションの手段を知り、身に付けることができる。
- ②個別指導や小集団指導で、自分に適したコミュニケーションの手段を活用して、相手の話を聞いたり、自分の話を伝えたりすることができる。
- ③学級で、コミュニケーションの手段を活用し、相手の話を聞いて意図を受け止めたり、自分の考えを伝えたりすることができる。

◎内容 視覚的な手掛かりを活用しながら相手の話を聞くなど、様々なコミュニケーションの手段を活用して正確にやりとりをすることができるようにする指導

○課題 様々なコミュニケーションの手段の活用

・指導目標例

- ①個別指導で、話す人の方向を見るなど聞く姿勢を形成するとともに、絵や写真等の視覚的な手掛かりを活用しながら相手の話を聞くなど、様々なコミュニケーションの手段を理解することができる。
- ②個別指導や小集団指導で、相手の言葉や表情等から相手の意図を推測するなどの学習を通して、場面や状況における他者の感情に配慮して、伝えることができる。
- ③学級で、様々なコミュニケーションの手段を活用して話を聞くとともに、他者の感情に配慮した正確なやり取りをすることができる。

(3) 言語の形成と活用に関すること。

◎内容 語彙や文法体系の習得とともに、それらを通して言語の概念を形成できるようにする指導

○課題 語彙や文法体系の習得

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と言葉遊びを行ったり、作業や体験的な活動を取り入れ課題に取り組んだりすることで、「できた」という経験から自信をもち、言葉の学習に意欲をもつことができる。
- ②個別指導で、巡回指導教員と日常生活の様々な事物や事象と関連付けながら言語化を行う学習を通して、語彙の習得や上位概念、属性、関連語等の言語概念を身に付けることができる。
- ③学級で、コミュニケーションを図ることに意欲をもちながら、身に付けた言葉を学級の生活の中で生かすことができる。

◎内容 言語によって体験や考えを整理し、思考を深めたり広げたりすることができるようにする指導

○課題 言語による思考

・指導目標例

- ①個別指導で、興味や関心に応じた教材を活用した学習を通して、語彙を増やしたり、言葉のやり取りを楽しんだりすることができる。
- ②個別指導で、体験した内容を言葉に置き換え、「何を書くか」テーマを決めた後、「どのように書くか」を意識して、文章（5W1H）を書くことができる。
- ③学級で、獲得した語彙や、考えを言語化する力を、学習や活動等で活用し、言葉によって整理をしたり、思考を深めたりすることができる。

(5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること。

◎内容 周囲の状況に関する適切な情報を得たり、雰囲気を読み取ったりすることができるようにする指導

○課題 雰囲気を読むこと

・指導目標例

- ①個別指導で、相手の立場に合わせた言葉遣いや場に応じた声の大きさなど、場面や状況にふさわしいコミュニケーションの方法を知り、身に付けることができる。
- ②個別指導や小集団指導で、周囲の状況を読み取りながら他者との会話の内容を把握し、場面や状況にふさわしい受け答えをすることができる。
- ③学級で、周囲の状況を読み取りながら他者との会話の内容を把握し、場面や状況にふさわしい受け答えをすることができる。

◎内容 状況が変化した場合に、柔軟で適切な対応ができるようにする指導

○課題 変化への柔軟で適切な対応

・指導目標例

- ①個別指導で、生活の様々な場面や状況が変化した場合の、適切に対応する方法を理解することができる。
- ②小集団指導で、学習や活動の状況が変化した場合に、柔軟で適切に対応することができる。
- ③学級で、学習や活動の状況が変化した場合に、柔軟で適切に対応することができる。

◎内容 自分が理解した内容に誤りがないかどうかを確かめるなど、主体的に関わろうとすることができるようにする指導

○課題 主体的な関わり

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員に日常であったことを報告したり、相手に伝えるための話し方を学習したりするなど、ホワイトボード等を使用して気持ちや考えを書きながら整理することができる。
- ②個別指導や小集団指導で、安心して自分の気持ちを言葉で表現する経験を重ね、相談することの良さを実感できるとともに、自分のコミュニケーションの傾向を理解することができる。
- ③学級で、援助や依頼を求めたり、必要なことを伝えたり相談したり、考えを目的に沿って言葉にすることができる。

## 1 健康の保持

### (1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関すること。

◎内容 生育歴や家庭環境等が要因となり、生活のリズムが不規則であったり、生活習慣の形成が困難だったりする児童・生徒が、家庭との密接な連携の下で生活習慣や生活のリズムを自ら形成することができるようにする指導

○課題 生活のリズムや生活習慣の形成

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と起床や就寝時刻、食事の時間を記録するなどスケジュールなどを管理する方法を考え、自分の生活のリズムに気付き、生活習慣を形成する大切さを理解することができる。
- ②個別指導で、朝決まった時刻に起きることや、日中は身体を動かす活動や遊びを行って目覚めた状態を維持すること、規則正しく食事をとることなど、生活リズムを形成するための方法を考え、家庭で実践することができる。
- ③生活習慣や生活のリズムを、自ら形成することができる。

## 2 心理的な安定

### (1) 情緒の安定に関すること。

◎内容 過去の失敗経験等により、自信をなくしたり、情緒が不安定になりやすかったりする児童・生徒が、自信をもつことができるようにする指導

○課題 自信のなさや情緒の不安定

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と自分の良さや得意なことを考えるとともに、課題に取り組むなどする中で、できたという経験を積み重ねることができる。
- ②個別指導や小集団指導で、学習や活動に取り組む中で、自分の良さに気付くとともに、できたという経験を積み重ね、自信をもつことができる。
- ③学級で、自信をもちながら、学習や活動に取り組むことができる。

◎内容 生活環境など様々な要因から心理的に緊張したり不安になったりする状態が継続し、集団参加が難しくなっている児童・生徒の環境を改善することで、情緒の安定を図る指導

○課題 心理的な緊張や不安

・指導目標例

- ①個別指導で、睡眠や生活リズム、体調、天気、家庭生活など、心理的に緊張したり不安になったりする生活環境の要因を知り、環境を改善する方法を知り、実行することができる。
- ②個別指導や小集団指導で、生活環境の改善を図るとともに、情緒の安定の仕方を知り、実行することができる。
- ③学級で、生活環境の改善を図るとともに、情緒を安定させながら、集団で行う学習や活動等に参加することができる。



(2) 状況の理解と変化への対応に関すること。

◎内容 児童・生徒が安心して参加できる集団構成や活動内容等の工夫をし、更に指導者が付き添って適切な援助をするなどして情緒の安定を図りながら、様々な場面に対応できるようにする指導

○課題 様々な場面への対応

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と一緒に学習や活動をすることで安心して取り組むとともに、集団の中での様々な場面への対応の仕方を知ることができる。
- ②個別指導や小集団指導で、巡回指導教員と一緒に集団の学習や活動に参加することで情緒の安定を図りながら、集団の中での様々な場面に対応することができる。
- ③学級で、情緒を安定させながら、集団の中での様々な場面に対応することができる。

◎内容 心理的な余裕がなく、人の行動や表情などのちょっとした変化にも敏感に反応して、自分に危害が加わると感じて過剰に防衛したり、どう対応していいかわからずに、わざと叱られるような行動をとってしまったたり、適切な行動がとれなくなってしまう児童・生徒に対して、変化への耐性を育てたり、刺激への過剰な反応を和らげたりする指導

○課題 変化への耐性や刺激への反応

・指導目標例

- ①個別指導で、人の行動や表情、出来事などの変化や日常の刺激に敏感に反応する自分の特性を理解し、変化への耐性や刺激への過剰な反応を和らげる学習を通して、改善しようとする気持ちをもつことができる。
- ②個別指導で、変化への耐性や刺激への反応を和らげる学習を通して、場面や状況における適切な対応の仕方を身に付けることができる。
- ③学級で、変化や刺激があった際に、適切に対応することができる。

(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。

◎内容 障害に起因して心理的な安定を図ることが困難な状態にある児童・生徒に、子供同士の自然な関わりを大切にしたり、先輩の考え方を参考にしたりするなどして心理的な安定を図り、積極的に行動しようとする態度を育てる指導

○課題 心理的な安定

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員との関りから人を大切にする気持ちを持ち、社会で活躍する先輩の考え方を調べ参考にするなどして、自分の障害の状態を理解し、受容することができる。
- ②個別指導や小集団指導で、心理的に安定する方法を考え、実行するとともに、友達との関わりを大切にしながら行動できる。
- ③学級で、友達を大切にする気持ちを持ち、心理的に安定を図りながら積極的に行動しようとするすることができる。

### 3 人間関係の形成

#### (1) 他者とのかかわりの基礎に関すること。

◎内容 直接的に指導を担当する教師を決めるなどして、教師との安定した関係を形成して相互に関わり合う素地を作る指導

○課題 他者と相互に関わり合う素地

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と安定した関係を形成し、人と相互に関わり合うためのやり取りをする方法を知り、身に付けることができる。
- ②個別指導や小集団指導で、教員や友達と安定した関係を形成し、自分の感情の表し方や、他者と気持ちの共有を図る学習を通して、人と関わる素地を身に付けることができる。
- ③学級で、教員や友達と安定した関係を形成し、適切に自分の感情を表し、他者と気持ちの共有を図りながら、相互に関わろうとすることができる。

◎内容 人に対する基本的な信頼感が希薄な児童・生徒と信頼関係を形成する指導

○課題 人への基本的な信頼感

・指導目標例

- ①個別指導で、自分の気持ちを理解する学習や、他者と気持ちの共有を図る学習を通して、巡回指導教員と信頼関係を築くことができる。
- ②小集団指導で、自分の気持ちを理解しながら、他者と気持ちの共有を図り、教員や友達と信頼関係を築くことができる。
- ③学級で、自分の気持ちを理解しながら、他者と気持ちの共有を図り、教員や友達と信頼関係を築くことができる。

#### (3) 自己の理解と行動の調整に関すること。

◎内容 自己に対する知識やイメージが、様々な経験や他者との比較によって低下しており、自信を失っている児童・生徒の、自己肯定感などを高める指導

○課題 自己肯定感

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と容易にできる学習や活動に取り組み、成就感を味わい自己に対するイメージを高め、自信をもつことができる。
- ②個別指導や小集団指導で、教員や友達と学習や活動に取り組み、自己に対するイメージを高め自信をもちながら、自己に肯定的な感情をもつことができる。
- ③学級で、自己に肯定的な感情をもちながら、学習や活動に取り組むことができる。



(4) 集団への参加の基礎に関すること。

◎内容 人に対する基本的信頼感を回復し、集団に参加するための手順や決まりを守って、遊びや集団活動に安心して参加できるようにする指導

○課題 集団活動への参加

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と信頼関係を築き、集団に参加するための手順や決まりについて、ロールプレイなどの学習を通して理解することができる。
- ②小集団指導で、巡回指導教員や友達と信頼関係を築き、集団に参加するための手順や決まりを守って、学習や活動に安心して参加することができる。
- ③学級で、教員や友達と信頼関係を築き、集団に参加するための手順や決まりを守って、学習や活動に安心して参加することができる。

## 6 コミュニケーション

(5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること。

◎内容 選択性かん黙の児童・生徒が、安心できる状況や信頼できる人間関係の中で、興味・関心のある活動を共感しながら一緒に行ったり、日記や作文などで気持ちや意思を交換したりすることができるようにする指導

○課題 選択性かん黙

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と信頼関係を作った上で、興味や関心のあることに一緒に活動をしたり、日記や作文を用いたりするなどして、気持ちや意思を交換できる。
- ②個別指導で、筆談など話し言葉以外のコミュニケーション手段を理解し、場面や状況に応じて活用することができる。
- ③学級で、教員や友達と言葉以外のコミュニケーション手段を活用し、気持ちや意思を交換できる。

◎内容 選択性かん黙の児童・生徒が、安心できる状況や信頼できる人間関係の中で、興味・関心のある活動を共感しながら一緒に行ったり、日記や作文などで気持ちや意思を交換したりすることができるようにする指導

○課題 選択性かん黙で、意思の交換

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と信頼関係を作った上で、興味や関心のあることに一緒に活動をしたり、日記や作文を用いたりするなどして、気持ちや意思を交換できる。
- ②個別指導で、筆談など話し言葉以外のコミュニケーション手段を理解し、場面や状況に応じて活用することができる。
- ③学級で、教員や友達と言葉以外のコミュニケーション手段を活用し、気持ちや意思を交換できる。

◎内容 気持ちを安定させ、安心できる状況や人間関係の中で素直に自分の思いや気持ちを表現できるようにする指導

○課題 自分の思いや気持ちの表現

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と信頼関係を築き、自分が安心できる状況を考え環境を構成し気持ちを安定させながら、考えや気持ちの表現の仕方を知ることができる。
- ②個別指導や小集団指導で、教員や友達と信頼関係を築き、安心できる環境を構成し気持ちを安定させながら、考えや気持ちを適切に伝えることができる。
- ③学級で、教員や友達と信頼関係を築き、気持ちを安定させながら、考えや気持ちを適切に伝えることができる。

## 1 健康の保持

### (4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること。

◎内容 自分の特性に気付き、自分を認め、生活する上で必要な支援を求められるようにする指導

○課題 必要な支援を求めること

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と自分の長所や短所、得手不得手や、他者との違いを肯定的に捉えるなどの学習を通して、自分の特性に気付くとともに自分を認めることができる。
- ②個別指導や小集団指導で、教員や友達と関わる技能の学習をするなどして、生活する上で必要な支援を求めることができる。
- ③学級で、教員や友達と関わる中で、自分の特性を意識しながら、生活する上で必要な支援を求めることができる。

## 2 心理的な安定

### (1) 情緒の安定に関すること。

◎内容 失敗経験から自信を失ったり、情緒が不安定になりやすかったりする児童・生徒に、自分のよさに気付かせたり、自信がもてるように励ましたりして活動への意欲を促す指導

○課題 自信を失い、情緒が不安定

・指導目標例

- ①個別指導で、得意なことを生かして課題をやり遂げるなど、成功する経験を通して、自分の良さに気付くことができる。
- ②個別指導や小集団指導で、得意なことを生かして課題をやり遂げるなど、成功する経験を通して、自分の良さに気付き、自信をもつことができる。
- ③学級で、自分の良さを理解し自信をもちながら、学習や活動に意欲的に取り組むことができる。

### (2) 状況の理解と変化への対応に関すること。

◎内容 場所や場面の状況を理解して心理的な抵抗を軽減したり、変化する状況を理解して適切に対応したりできるようにする指導

○課題 変化する状況への対応

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と心理的に圧迫を受ける場面や状況を考え理解するとともに、一緒に活動することで、慣れることができる。
- ②個別指導で、巡回指導教員と変化する状況を考え理解するとともに、適切に対応する方法を知り、身に付けることができる。
- ③学級で、心理的に圧迫を受けたときや、変化する状況などに、適切に対応することができる。

### (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。

◎内容 自分の障害の状態を理解したり受け止めたりして、困難を改善・克服しようとする意欲をもたせる指導

○課題 障害への理解と、困難を改善・克服する意欲

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と特性に応じた学習する方法を考え、身に付けることができる。
- ②個別指導で、自分の特性に応じた学習方法を活用し、成功体験を積み重ねるなどして、学習への意欲や関心を高めることができる。
- ③学級で、自分の特性に応じた学習方法を活用し、意欲や関心をもって取り組むことができる。

◎内容 自分の得意な面と苦手な面を知り、得意な面を活用することで困難を克服することができるという経験をさせる指導

○課題 得意な面を活用した困難さの克服

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と自分の得意なことや苦手なことを考え、得意なことの活用の仕方を広く知ることができる。
- ②個別指導や小集団指導で、困難な出来事に対する自分の得意なことの生かし方を考え、学習や活動する場面で活用することができる。
- ③学級で、困難な出来事が起きた際に、克服しようとするすることができる。

◎内容 成功体験を積み重ねることで自分に自信をもてるようにし、苦手なことにも積極的に立ち向かう意欲をもたせる指導

○課題 苦手なことに立ち向かう意欲

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と自分の苦手なことに対してスモールステップで取り組み、成功体験を積み重ねることができる。
- ②個別指導で、自分の苦手なことに対して解決する経験を積み重ね、自信をもちながら苦手なことに積極的に取り組もうとすることができる。
- ③学級で、自分の苦手なことに対して、自信をもちながら意欲をもって取り組むことができる。

◎内容 タブレット端末などを用いて、苦手意識を軽減させたり意欲をもたせたりする指導

○課題 苦手意識を軽減し意欲をもつこと

・指導目標例

- ①個別指導で、自分の苦手な学習を考え理解するとともに、電子書籍を利用して読み取ったり、口述筆記やワープロのアプリケーションを使ってキーボード入力したりするなど、タブレット端末を用いて学習上の困難を解決する方法を知ることができる。
- ②個別指導で、タブレット端末を用いて自分の苦手な学習に取り組み、学習への苦手意識を軽減し意欲をもつことができる。
- ③学級で、タブレット端末を用いて自分の苦手な学習に意欲的に取り組むことができる。

### 3 人間関係の形成

#### (1) 他者とのかかわりの基礎に関すること。

- ◎内容 他者と関わりたいという意欲をもたせる指導、  
人と関わる楽しさや心地よさを味わえるような指導

○課題 他者との関わり

#### ・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と興味や関心がある会話をしたり、学習を通して認められたりすることなどを通して、人と関わる楽しさを実感できる。
- ②個別指導や小集団指導で、教員や友達と関わる中で、人に認められたり、人を認めたりすることなどを通して、人と関わる楽しさや心地良さを実感できる。
- ③学級で、意欲をもって他者と関わろうとすることができる。

#### (3) 自己の理解と行動の調整に関すること。

- ◎内容 自分の得意なことや苦手なこと、自分の行動の特徴などを理解させ、集団の中で状況に応じた行動ができるようにする指導

○課題 集団の中での状況に応じた行動

#### ・指導目標例

- ①個別指導で、自分の得手不得手や集団の中での自分の行動の特徴など、自分自身について理解することができる。
- ②個別指導や小集団指導で、集団の中での様々な状況に応じた行動の仕方について理解するとともに、集団に合わせて自己の行動を調整しようとするすることができる。
- ③学級で、自己の行動を調整しながら、集団の中で状況に応じた行動ができる。

#### (4) 集団への参加の基礎に関すること。

- ◎内容 集団の雰囲気に合わせてたり、集団に参加するために必要な手順や決まりを理解したりして、遊びや集団活動などに積極的に参加できるようにする指導

○課題 雰囲気に合わせ、手順や決まりを理解した集団参加

#### ・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と場面や状況における集団の雰囲気を考えるとともに、集団に参加するために必要な手順や決まりを理解することができる。
- ②小集団指導で、集団の雰囲気に合わせ、集団に参加するために必要な手順や決まりを守り、学習や活動などに参加することができる。
- ③学級で、集団の雰囲気に合わせ、集団に参加するために必要な手順や決まりを守り、遊びや集団活動などに参加することができる。

- ◎内容 児童・生徒が、友達との会話の背景や経過を類推することが難しいために集団に積極的に参加できない場合に、日常的によく使われる友達同士の言い回しや分からないときの尋ね方等を身に付けさせる指導

○課題 友達との会話の背景や経過の類推

・指導目標例

- ①個別指導で、友達との日常生活における会話の内容について、背景を類推することや、友達の言い回しなどが分からないときの尋ね方などを身に付けることができる。
- ②個別指導や小集団指導で、相手の話す内容の背景を類推しようとしたり、分からない言い回しがあったりした際に尋ねるなどして、集団の学習や活動等に参加することができる。
- ③学級で、友達と会話をする際、相手の会話の背景を類推するとともに、分からない言い回しがあった際は尋ねるなどしながら集団に参加することができる。

◎内容 児童・生徒が、遊びのルールを聞き漏らしたり、最後まで聞かずに遊び始めたりしてルールを理解していない場合に、ルールを少しずつ段階的に理解できるようにさせる指導

○課題 聞き漏らすことによるルールの理解

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と聞く学習を通して、説明や指示を最後まで聞く態勢を身に付けるとともに、内容を理解することができる。
- ②小集団指導で、学習や活動をする際の教員の全体に向けた説明や指示を聞き、内容や決まりを理解しながら取り組むことができる。
- ③学級で、学習や活動をする際の教員の全体に向けた説明や指示を聞き、内容や決まりを理解しながら取り組むことができる。

◎内容 児童・生徒が、勝ちたいという意識からルールを守ることができない場合に、適切な行動を身に付けさせる指導

○課題 勝ちたいという意識のコントロール

・指導目標例

- ①個別指導で、勝負にこだわる自分の特性に気付き、勝った際や負けた際の適切な言動を理解することができる。
- ②小集団指導で、勝負がかかる学習や活動をするときに自身の特性に気付き、勝敗が付いた際に適切に行動することができる。
- ③学級で、勝負がかかる学習や活動をするときに自身の特性に気付き、勝敗が付いた際に適切に行動することができる。

◎内容 遊びへの参加方法が分からないときの不安を鎮める方法を身に付けさせる指導

○課題 参加方法が分からないときの不安

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と集団の活動への参加方法が分からないときの解決の仕方を考え、身に付けることができる。
- ②個別指導や小集団指導で、集団の活動への参加方法が分からないときの解決の仕方を実行し、不安を鎮めながら参加できる。
- ③学級で、集団の活動への参加方法が分からないときの解決の仕方を実行し、不安を鎮めながら参加できる。



## 4 環境の把握

(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること。

◎内容 児童・生徒一人一人の感覚や認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるようにする指導

○課題 感覚や認知の特性を踏まえた情報の処理

・指導目標例

- ①個別指導で、自分の感覚や認知の特性とともに、入ってくる情報の適切な処理の仕方を理解できる。
- ②個別指導や小集団指導で、自分の感覚や認知の特性を踏まえ、入ってくる情報を適切に処理することができる。
- ③学級で、自分の感覚や認知の特性を踏まえ、入ってくる情報を適切に処理することができる。

◎内容 児童・生徒一人一人の感覚の過敏さや認知の偏りなどの特性に対応できるようにする指導

○課題 感覚の過敏さや認知の偏り

・指導目標例

- ①個別指導で、自分の感覚の過敏さや認知の偏りなどの特性を理解できる。
- ②個別指導や小集団指導で、自分の感覚の過敏さや認知の偏りなどの特性を踏まえ、場面や状況における適切な対応の仕方について、理解することができる。
- ③学級で、自分の感覚の過敏さや認知の偏りなどの特性を踏まえ、場面や状況において適切に対応することができる。

◎内容 児童・生徒の、個々の認知特性に合わせた言葉や数の学習の指導

○課題 言葉や数の学習

・指導目標例

- ①個別指導で、読み取りやすい書体を確認することや文字間や行間を広げること、聞いて理解すること、図や絵等を使い表現することなど、自分に適した言葉や数の学習方法を知り、身に付けることができる。
- ②個別指導で、自分に適した学習方法を活用し、言葉や数の学習に取り組むことができる。
- ③学級で、自分に適した学習方法を活用し、言葉や数の学習に取り組むことができる。

◎内容 認知の特性に応じて、苦手な課題を少しずつ改善したり、得意な方法を積極的に活用できるようにしたりする指導

○課題 認知の特性による苦手な課題の改善

・指導目標例

- ①個別指導で、見やすい書体や文字の大きさや文字間や行間、文節を区切る、ラインを引き強調するなど、自分の認知の特性に応じた得意な習得方法を知り、身に付けることができる。
- ②個別指導で、自分の認知の特性に応じた得意な習得方法を活用し、苦手な課題に取り組もうとすることができる。
- ③学級で、自分の認知の特性に応じた得意な習得方法を活用し、苦手な学習に取り組むことができる。

(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること。

◎内容 視覚、聴覚、触覚などの保有するいろいろな感覚を活用して周囲の状況を的確に把握することができるようにする指導

○課題 保有する感覚を活用した状況把握

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と視覚や聴覚、触覚など保有する感覚を活用して周囲の状況を把握する方法を考え、身に付けることができる。
- ②個別指導や小集団指導で、保有する感覚を活用して、情報収集をしたり、状況の把握をしたりして、的確な判断や行動ができる。
- ③学級で、保有する感覚を活用して、情報収集をしたり、状況の把握をしたりして、的確な判断や行動ができる。

◎内容 感覚を総合的に活用して得られた情報から、周囲の状況や他者の気持ちを把握し、的確な判断や行動ができるようにする指導

○課題 状況や他者の気持ちを把握した的確な判断や行動

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と視覚や聴覚、触覚などの感覚を総合的に活用した情報の得方を学習し、身に付けることができる。
- ②個別指導や小集団指導で、感覚を総合的に活用した情報の得方を活用し、周囲の状況や他者の気持ちを把握し、的確な判断や行動を知り、実行することができる。
- ③学級で、感覚を総合的に活用した情報の得方を活用し、周囲の状況や他者の気持ちを把握し、的確な判断や行動ができる。

◎内容 書くことの指導をする場合、様々な感覚を使って多面的に文字を認識し、自らの動きを具体的に想像してから文字を書くことができるような指導

○課題 様々な感覚を用いた書字

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と腕を大きく動かして文字の形をなぞるなど、様々な感覚を使って多面的に文字を認識するとともに、自分の動きを想像して文字を書くことができる。
- ②個別指導で、巡回指導教員と目と手の協応動作を高める学習を通して、意図した文字を書くことができる。
- ③学級で、様々な感覚を使い多面的に文字を認識したり、自分の動きを想像したり、目と手を協応させたりして、ノート等に意図した文字を書くことができる。

(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。

◎内容 経験によって作り上げてきた概念を、自分が新たに認知や行動を進めていくために活用することができるようにする指導

○課題 既知の概念を活用した、新たな認知や行動



・指導目標例

- ①個別指導で、日常生活で用いられる「左右」のような抽象的な概念の未定着であるものに対して、実際に用いる場面や状況をロールプレイ等で体験したり、言葉と関連付けたりしながら、概念を形成することができる。
- ②個別指導で、基礎的な概念を用いて、記憶をしたり、思考をしたり、判断をしたり、決定をしたり、推理をしたり、イメージをしたりすることで、定着を図ることができる。
- ③学級で、基礎的な概念を学習や生活の中で活用することができる。

5 身体の動き

(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。

◎内容 全身または身体各部位の筋肉に適度な緊張状態を作り出せるようにする指導

○課題 筋肉に適度な緊張状態作り出すこと

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得に関する学習を通して、筋力の維持や強化を図ることができる。
- ②個別指導で、巡回指導教員と姿勢保持や姿勢変換、移動、四肢の粗大運動と微細運動など、基本動作を行うことができる。
- ③学級で、臥位や座位、立位など、適切な姿勢保持をすることができる。

(3) 日常生活に必要な基本動作に関すること。

◎内容 書字、描画等の学習に必要な基本動作を身に付けさせることができるようにする指導

○課題 書字、描画等に必要な基本動作

・指導目標例

- ①個別指導で、鉛筆の握り方がぎこちなく過度に力を入れすぎることや、筆圧が強すぎて行や枠からはみ出してしまうことなど、手や指先を用いる細かい動きのコントロールについて、苦手の理由を知ることができる。
- ②個別指導で、目と手、右手と左手等を協応させながら動かす学習や運動に取り組み、書字や描画等に必要な基本動作を身に付けるとともに、使いやすい形や重さの筆記用具や滑り止め付きの定規等、自分が使いやすい文具を理解することができる。
- ③学級で、使いやすい文具を使うとともに、苦手の部分を申し出て、端末によるキーボード入力等で記録することや黒板を写真に撮ることなど、ICT 機器を用いて書字や描画等の代替手段を活用し、学習に取り組むことができる。

(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。

◎内容 両手の協応や目と手の協応動作が円滑に遂行できるようにする指導

○課題 両手の協応や目と手の協応動作

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と手遊びやビーズなどを仕分ける活動や、ひもにビーズを通す活動などに取り組み、両手や目と手の協応動作を高めようとすることができる。
- ②個別指導で、巡回指導教員と両手や目と手の協応動作を高めるための、興味や関心をもてる内容や課題を考え工夫し、取り組むことができる。
- ③学級で、両手の協応や目と手の協応動作が必要な学習や活動に取り組む際に、円滑に遂行することができる。

◎内容 興味をもっていることを生かしながら道具等を使って手指を動かす体験を積み重ね、巧緻性を高められるようにする指導

○課題 手指の巧緻性

・指導目標例

- ①個別指導で、興味や関心があることを生かしながら、道具等を使って手指を動かす体験を積み重ね、手指の巧緻性を高めようとすることができる。
- ②個別指導で、手指について一つずつ動作を身に付け、徐々に身に付けた一つ一つの動作をつなげて連続して行うことができる。
- ③個別指導で、手指について手本となる動作や自分の動作を映像で確認するなどして、自ら調整や改善を図ることができる。

◎内容 障害の状態によって、身体の動きの面で、関係する教科等の学習との関連を図り、目と手の協応した動き、姿勢や作業の持続性などについて、自己調整できるようにする指導

○課題 目と手の協応した動き、姿勢や作業の持続性などの自己調整

・指導目標例

- ①個別指導で、興味や関心があることを生かしながら、道具等を使って手指を動かす体験を積み重ね、手指の巧緻性を高めようとすることができる。
- ②個別指導で、教科等の学習をする上で、必要な目と手の協応した動きや、姿勢や作業の持続性などについて、自己調整する方法を理解することができる。
- ③学級で、教科等を学習する上で、必要な目と手の協応した動きや、姿勢や作業の持続性などについて、自己調整することができる。

## 6 コミュニケーション

### (1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること。

◎内容 人とやりとりする楽しさを味わわせ、コミュニケーションをとろうとする意欲を育てる指導

○課題 コミュニケーションをとろうとする意欲

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と自分の興味や関心のある活動をする中で、人とやり取りをすることや人と通じ合うことについて、楽しさを感じることができる。
- ②個別指導や小集団指導で、教員や友達と相互的にやり取りをする基礎的なコミュニケーションの方法を知り、身に付けることができる。
- ③学級で、身に付けた基礎的なコミュニケーションの方法を活用し、教員や友達と相互的なやり取りをすることができる。

◎内容 話す人の方向を見るなどの、話を聞く態度を身に付けさせる指導

○課題 話を聞く態度

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員の言葉掛けに対して視線を合ったり、聞く学習を通して、聞く姿勢を身に付けることができる。
- ②小集団指導で、教員の全体に向けた説明や指示を聞き理解した上で、学習や活動に取り組むことができる。
- ③学級で、教員の全体に向けた説明や指示を聞き理解した上で、学習や活動に取り組むことができる。

◎内容 他者と相互交流する際に必要なマナーや技能等の基礎的な力を身に付けさせる指導

○課題 他者と交流する際のマナーや技能

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と場面や状況における他者と交流する際に必要なマナーを理解し、基礎的な力を身に付けることができる。
- ②小集団指導で、身に付けた基礎的なマナーについての知識を活用し、他者と交流することができる。
- ③学級で、身に付けたマナーについての知識を活用し、学級で生活をする際に、他者と適切に交流することができる。

### (2) 言語の受容と表出に関すること。

◎内容 話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を受け止めたり、自分の考えを伝えたりする力を身に付けさせる指導

○課題 相手の意図を受け止め、自分の考えを伝えること

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と、絵や写真などの視覚的な手掛かりを活用しながら相手の話を聞くことや、メモ帳やタブレット型端末等を活用して自分の話したい内容を相手に伝えることなど、自分に適したコミュニケーションの手段を知り、身に付けることができる。
- ②個別指導や小集団指導で、自分に適したコミュニケーションの手段を活用して、相手の話を聞いたり、自分の話を伝えたりすることができる。
- ③学級で、コミュニケーションの手段を活用し、相手の話を聞いて意図を受け止めたり、自分の考えを伝えたりすることができる。

(3) 言語の形成と活用に関すること。

◎内容 語彙や文法体系の習得とともに、それらを通して言語の概念を形成できるようにする指導

○課題 語彙や文法体系の習得

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と言葉遊びを行ったり、作業や体験的な活動を取り入れ課題に取り組んだりすることで、「できた」という経験から自信をもち、言葉の学習に意欲をもつことができる。
- ②個別指導で、巡回指導教員と日常生活の様々な事物や事象と関連付けながら言語化を行う学習を通して、語彙の習得や上位概念、属性、関連語等の言語概念を身に付けることができる。
- ③学級で、コミュニケーションを図ることに意欲をもちながら、身に付けた言葉を学級の生活の中で生かすことができる。

◎内容 言語によって体験や考えを整理し、思考を深めたり広げたりすることができるようにする指導

○課題 言葉によって考えを整理し、思考を深めること

・指導目標例

- ①個別指導で、実体験や写真、絵などと言葉の意味を結び付ける学習や、興味や関心に応じた教材を活用した学習を通して、語彙を増やしたり、言葉のやり取りを楽しんだりすることができる。
- ②個別指導で、体験した内容を言葉に置き換え、「何を書くか」テーマを決めた後、「どのように書くか」を意識して、文章（5W1H）を書くことができる。
- ③学級で、獲得した語彙や、考えを言語化する力などについて、学習や活動等で活用し、言葉によって整理をしたり、思考を深めたりすることができる。

◎内容 児童・生徒が、文字や文章を読んで理解することが極端に困難を示す場合に、タブレット端末などを活用して、聞いて理解する力を伸ばしながら、読んで理解する力を身に付けさせる指導

○課題 読んで理解する力

・指導目標例

- ①個別指導で、タブレット端末等を用いた学習をすることを通して、文字や文章を見たり聞いたりしながら理解できる。
- ②個別指導で、タブレット端末等を用いた学習をして、文字や文章を聞いて理解する力を伸ばしながら、文字や文章を読み意味や内容を理解することができる。
- ③学級で、タブレット端末等を活用し、文字や文章を読んで理解することができる。

(5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること。

◎内容 自分が理解した内容に誤りがないかどうかを確かめるなど、主体的に関わろうとすることができるようにする指導

○課題 主体的に関わろうとすること

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員に日常であったことを報告したり、相手に伝えるための話し方を学習したりすることについて、ホワイトボード等を使用して気持ちや考えを書きながら整理することができる。
- ②個別指導や小集団指導で、安心して自分の気持ちを言葉で表現する経験を重ね、相談することの良さを実感できるとともに、自分のコミュニケーションの傾向を理解することができる。
- ③学級で、援助や依頼を求めたり、必要なことを伝えたり相談したり、考えを目的に沿って言葉にすることができる。

◎内容 児童・生徒が、自分で内容をまとめながら聞く能力を高めるとともに、分からないときに聞き返す方法や相手の表情にも注目する態度を身に付けさせるなどして、状況に応じたコミュニケーションができるようにする指導

○課題 状況に応じたコミュニケーション

・指導目標例

- ①個別指導で、内容をまとめながら聞く学習を行い聞く能力を高めるとともに、分からないときに聞き返す方法や表情から相手の気持ちを想像する学習を行うなどして、状況や場面に応じたコミュニケーションを図ることができる。
- ②個別指導で、巡回指導教員との話の内容を記憶して、前後関係を比較したり類推したりする学習を通して、会話の内容や状況に応じた受け答えができる。
- ③学級で、教員や友達との話の内容を記憶して、前後関係を比較したり類推したりして、会話の内容や状況に応じた受け答えができる。

## 1 健康の保持

### (1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関すること。

◎内容 児童・生徒に、整理・整頓などの生活習慣を身に付けさせる指導

○課題 整理・整頓などの生活習慣

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と整理・整頓をすることが困難な要因を明らかにし、段階的な学習を通して、整理・整頓をすることに慣れるとともに、必要性を実感できる。
- ②個別指導で、学級や家庭の生活場面に即した整理・整頓の仕方を理解する学習を通して、整理・整頓をすることを、日常の生活のリズムや生活習慣の中に形成できる。
- ③学級で、身の回りの自分の物を整理・整頓をすることを、生活の習慣として身に付けることができる。

### (4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること。

◎内容 自分の特性に気づき、自分を認め、生活する上で必要な支援を求められるようにする指導

○課題 必要な支援を求めること

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と自分の長所や短所、得手不得手や、他者との違いを肯定的に捉えるなどの学習を通して、自分の特性に気付くとともに自分を認めることができる。
- ②個別指導や小集団指導で、教員や友達と関わる技能を習得する学習をするなどして、生活する上で必要な支援を求めることができる。
- ③学級で、教員や友達と関わる中で、自分の特性を意識しながら、生活する上で必要な支援を求めることができる。

## 2 心理的な安定

### (1) 情緒の安定に関すること。

◎内容 失敗経験から自信を失ったり、情緒が不安定になりやすかったりする児童・生徒に、自分のよさに気付かせたり、自信がもてるように励ましたりして活動への意欲を促す指導

○課題 自信を失い、情緒が不安定

・指導目標例

- ①個別指導で、得意なことを生かして課題をやり遂げるなど、成功する経験を通して、自分の良さに気付くことができる。
- ②個別指導や小集団指導で、得意なことを生かして課題をやり遂げるなど、成功する経験を通して、自分の良さに気づき、自信をもつことができる。
- ③学級で、自分の良さを理解し自信をもちながら、学習や活動に意欲的に取り組むことができる。

◎内容 児童・生徒が、興奮を静められる方法や実際にその方法を行うことができるようにするための指導

○課題 興奮の静め方



・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と自分が反発したり、興奮を静められなくなったりする場面や状況を考え知るとともに、自分が落ち着く場所に移動することや、いったんその場を離れ深呼吸をすることなど、自分に適した興奮の静め方を理解することができる。
- ②個別指導や小集団指導で、自分に適した興奮の静め方を活用し静めることができる。
- ③学級で、自分に適した興奮の静め方を活用し静めることができる。

(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。

◎内容 自分の障害の状態を理解したり受け止めたりして、困難を改善・克服しようとする意欲をもたせる指導

○課題 障害への理解と、困難を改善・克服しようとする意欲

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と自分の特性に応じた学習する方法を考え、身に付けることができる。
- ②個別指導で、自分の特性に応じた学習方法を活用し、成功体験を積み重ねるなどして、学習への意欲や関心を高めることができる。
- ③学級で、自分の特性に応じた学習方法を活用し、意欲や関心をもって取り組むことができる。

◎内容 自分の得意な面と苦手な面を知り、得意な面を活用することで困難を克服することができるという経験をさせる指導

○課題 得意な面を活用した困難さの克服

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と自分の得意なことや苦手なことを考え、得意なことの活用の仕方を広く知ることができる。
- ②個別指導や小集団指導で、困難な出来事に対する自分の得意なことの生かし方を考え、学習や活動する場面で活用することができる。
- ③学級で、困難な出来事が起きた際に、自分の得意なことを生かし克服しようとすることができる。

◎内容 成功体験を積み重ねることで自分に自信をもてるようにし、苦手なことにも積極的に立ち向かう意欲をもたせる指導

○課題 苦手なことに立ち向かう意欲

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と自分の苦手なことに対してスモールステップで取り組み、成功体験を積み重ねることができる。
- ②個別指導で、自分の苦手なことに対して解決する経験を積み重ね、自信をもちながら苦手なことに積極的に取り組もうとすることができる。
- ③学級で、自分の苦手なことに対して、自信をもちながら意欲をもって取り組むことができる。

◎内容 タブレット端末などを用いて、苦手意識を軽減させたり意欲をもたせたりする指導

○課題 苦手意識を軽減し意欲をもつこと

・指導目標例

- ①個別指導で、自分の苦手な学習を考え理解するとともに、電子書籍を利用して読み取ったり、口述筆記やワープロのアプリケーションを使ってキーボード入力したりするなど、タブレット端末を用いて学習上の困難を解決する方法を知ることができる。
- ②個別指導で、タブレット端末を用いて自分の苦手な学習に取り組み、学習への苦手意識を軽減し意欲をもつことができる。
- ③学級で、タブレット端末を用いて自分の苦手な学習に意欲的に取り組むことができる。

3 人間関係の形成

(1) 他者とのかかわりの基礎に関すること。

◎内容 人と関わる楽しさや心地よさを味わえるような指導

○課題 他者と関わる意欲

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と興味や関心がある会話をしたり、学習する中で認められたりすることなどを通して、人と関わる楽しさを実感できる。
- ②個別指導や小集団指導で、教員や仲間と関わる学習から、人に認められたり、人を認めたりすることなどを通して、人と関わる楽しさや心地良さを実感できる。
- ③学級で、意欲をもって他者と関わろうとすることができる。

(3) 自己の理解と行動の調整に関すること。

◎内容 自分の得意なことや苦手なこと、自分の行動の特徴などを理解させ、集団の中で状況に応じた行動ができるようにする指導

○課題 集団の中での状況に応じた行動

・指導目標例

- ①個別指導で、自分の得手不得手や集団の中での自分の行動の特徴など、自分自身について理解することができる。
- ②個別指導や小集団指導で、集団の中での様々な状況に応じた行動の仕方について理解するとともに、集団に合わせて自己の行動を調整しようとするすることができる。
- ③学級で、自己の行動を調整しながら、集団の中で状況に応じた行動ができる。

◎内容 児童・生徒に、状況に合わせて行動することが自分は苦手であることを理解させ、行動する前に周囲の状況を観察したり、状況を理解するゆとりをもったりすることができるようにするための指導

○課題 状況に合わせた行動



・指導目標例

- ①個別指導で、行動を起こす前に周囲の状況を観察することや、状況を理解するためにゆとりをもつ学習などを通して、場面や状況に合わせて行動する方法を理解し、身に付けることができる。
- ②小集団指導で、場面や状況に合わせて行動する方法を活用することができる。
- ③学級で、場面や状況に合わせて行動することができる。

(4) 集団への参加の基礎に関すること。

◎内容 集団の雰囲気に合わせて、集団に参加するために必要な手順や決まりを理解したりして、遊びや集団活動などに積極的に参加できるようにする指導

○課題 雰囲気に合わせ、手順や決まりを理解した上で集団に参加

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と場面や状況における集団の雰囲気を考えるとともに、集団に参加するための必要な手順や決まりを理解することができる。
- ②小集団指導で、集団の雰囲気に合わせ、集団に参加するために必要な手順や決まりを守り、学習や活動などに参加することができる。
- ③学級で、集団の雰囲気に合わせ、集団に参加するために必要な手順や決まりを守り、遊びや集団活動などに参加することができる。

◎内容 児童・生徒が、遊びのルールを聞き漏らしたり、最後まで聞かずに遊び始めたりしてルールを理解していない場合に、ルールを少しずつ段階的に理解できるようにさせる指導

○課題 聞き漏らすことによるルールの理解

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と聞く学習を通して、説明や指示を最後まで聞く態勢を身に付けるとともに、内容を理解することができる。
- ②小集団指導で、学習や活動をする際の教員の全体に向けた説明や指示を聞き、内容や決まりを理解しながら取り組むことができる。
- ③学級で、学習や活動をする際の教員の全体に向けた説明や指示を聞き、内容や決まりを理解しながら取り組むことができる。

◎内容 児童・生徒が、興奮を静められる方法や実際にその方法を行うことができるようにするための指導

○課題 興奮を静める方法

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と遊びに夢中になるなど、興奮が静められなくなる場面や状況を考え知るとともに、落ち着く場所に移動することや、いったんその場を離れ深呼吸をすることなど、自分に適した興奮の静め方を理解することができる。
- ②個別指導や小集団指導で、自分に適した興奮の静め方を活用することができる。
- ③学級で、興奮の静め方を活用し、静めることができる。

◎内容 児童・生徒が、勝ちたいという意識からルールを守ることができない場合に、適切な行動を身に付けさせる指導

○課題 勝ちたいという意識のコントロール

・指導目標例

- ①個別指導で、勝負にこだわる自分の特性に気付き、勝った際や負けた際の適切な言動を理解することができる。
- ②小集団指導で、勝負がかかる学習や活動をするときに自身の特性に気付き、勝敗が付いた際に適切に行動することができる。
- ③学級で、勝負がかかる学習や活動をするときに自身の特性に気付き、勝敗が付いた際に適切に行動することができる。

◎内容 遊びへの参加方法が分からないときの不安を鎮める方法を身に付けさせる指導

○課題 参加方法が分からないときの不安

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と集団の活動への参加方法が分からないときの解決の仕方を考え、身に付けることができる。
- ②個別指導や小集団指導で、集団の活動への参加方法が分からないときの解決の仕方を実行し、不安を鎮めながら参加できる。
- ③学級で、集団の活動への参加方法が分からないときの解決の仕方を実行し、不安を鎮めながら参加できる。

#### 4 環境の把握

(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること。

◎内容 児童・生徒一人一人の感覚や認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるようにする指導

○課題 感覚や認知の特性を踏まえた情報処理

・指導目標例

- ①個別指導で、自分の感覚や認知の特性とともに、入ってくる情報の適切な処理の仕方を理解することができる。
- ②個別指導や小集団指導で、自分の感覚や認知の特性を踏まえ、入ってくる情報を適切に処理することができる。
- ③学級で、自分の感覚や認知の特性を踏まえ、入ってくる情報を適切に処理することができる。

◎内容 児童・生徒の、個々の認知特性に合わせた言葉や数の学習の指導

○課題 言葉や数の学習

・指導目標例

- ①個別指導で、読み取りやすい書体を確認することや文字間や行間を広げること、聞いて理解すること、図や絵等を使い表現することなど、自分に適した言葉や数の学習方法を知り、身に付けることができる。
- ②個別指導で、自分に適した学習方法を活用し、言葉や数の学習に取り組むことができる。
- ③学級で、自分に適した学習方法を活用し、言葉や数の学習に取り組むことができる。

◎内容 認知の特性に応じて、苦手な課題を少しずつ改善したり、得意な方法を積極的に活用できるようにしたりする指導

○課題 認知特性に応じた苦手な課題への取組

・指導目標例

- ①個別指導で、見やすい書体や文字の大きさ、文字間や行間、文節を区切る、ラインを引き強調するなど、自分の認知の特性に応じた習得方法を知り、身に付けることができる。
- ②個別指導で、自分の認知の特性に応じた習得方法を活用し、苦手な課題に取り組もうとすることができる。
- ③学級で、自分の認知の特性に応じた習得方法を活用し、苦手な学習に取り組むことができる。

(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること。

◎内容 視覚、聴覚、触覚などの保有するいろいろな感覚を活用して周囲の状況を的確に把握することができるようにする指導

○課題 保有する感覚を活用した周囲の状況把握

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と視覚や聴覚、触覚など保有する感覚を活用して周囲の状況を把握する方法を考え、身に付けることができる。
- ②個別指導や小集団指導で、保有する感覚を活用して、情報収集をしたり、状況の把握をしたりして、的確な判断や行動ができる。
- ③学級で、保有する感覚を活用して、情報収集をしたり、状況の把握をしたりして、的確な判断や行動ができる。

◎内容 感覚を総合的に活用して得られた情報から、周囲の状況や他者の気持ちを把握し、的確な判断や行動ができるようにする指導

○課題 状況や他者の気持ちを把握した的確な判断や行動

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と視覚や聴覚、触覚などの感覚を総合的に活用した情報の得方を学習し、身に付けることができる。
- ②個別指導や小集団指導で、感覚を総合的に活用した情報の得方を活用し、周囲の状況や他者の気持ちを把握するとともに、的確な判断や行動の仕方を知ることができる。
- ③学級で、感覚を総合的に活用した情報の得方を生かし、周囲の状況や他者の気持ちを把握しながら的確な判断や行動ができる。

(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。

◎内容 経験によって作り上げてきた概念を、自分が新たに認知や行動を進めていくために活用することができるようにする指導

○課題 既知の概念を基にした新たな認知や行動

・指導目標例

- ①個別指導で、課題に取り組む際に、スケジュールや時計などで流れや時間を確認するとともに、学習や活動が時間で区切られていることを理解し、残りの時間を確認しながら学習や活動に優先順位を付けるなどして、適切に段取りを整えることができる。
- ②個別指導や小集団指導で、残りの時間を確認しながら優先順位を付けるとともに、段取りを整えながら学習や活動に取り組むことができる。
- ③学級で、残りの時間を確認しながら優先順位を付けるとともに、段取りを整えながら学習や活動に取り組むことができる。

## 5 身体の動き

(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。

◎内容 全身又は身体各部位の筋肉に適度な緊張状態を作り出せるようにする指導

○課題 筋肉に適度な緊張状態を作り出すこと

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得に関する学習を通して、筋力の維持や強化を図ることができる。
- ②個別指導で、巡回指導教員と姿勢保持や姿勢変換、移動、四肢の粗大運動と微細運動など、基本動作を行うことができる。
- ③学級で、臥位や座位、立位など、適切な姿勢保持をすることができる。

◎内容 児童・生徒が、姿勢保持のチェックポイントを自分で確認できるようにする指導

○課題 姿勢保持

・指導目標例

- ①個別指導で、身体を常に動かすことや気付かない間に座位や立位が崩れることなど、自分の身体の特性を考え理解するとともに、姿勢を保持する大切さを理解することができる。
- ②個別指導や小集団指導で、姿勢を整えやすい机や椅子の使用や、姿勢保持のチェックポイント等を作成し自分で確認するなど、姿勢を保持するための方法を考え、身に付けることができる。
- ③学級で、姿勢を保持しながら学習や活動に取り組むことができる。

(3) 日常生活に必要な基本動作に関すること。

◎内容 書字、描画等の学習に必要な基本動作を身に付けさせることができるようにする指導

○課題 書字、描画等に必要な基本動作

・指導目標例

- ①個別指導で、書字や描画等の学習のための基本動作である、姿勢の保持や移動、上肢の諸動作を習得するとともに、座位や立位を保持しながら、上肢を十分に動かすことができる。
- ②個別指導で、安定した座位を確保しながら両腕を体の前に伸ばすことや身体の正面で両手を合わせ、指を握ったり開いたりすること、身体のほとんどの部位へ指先が届くこと、手の動きを目で追うことなど、書字や描画等の学習に必要な基本動作ができる。
- ③学級で、姿勢を保持しながら書字や描画等の学習に取り組むことができる。

(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。

◎内容 両手の協応や目と手の協応動作が円滑に遂行できるようにする指導

○課題 両手の協応や目と手の協応動作

・指導目標例

- ①個別指導で、身体がリラックスする運動や、ボディイメージを育てる運動等に取り組みながら、身の回りの生活をする上で必要となる動作を習熟することができる。
- ②個別指導で、手足を協調させる動作や微細な運動など、手足の簡単な動きから始めて、段階的に高度な動きに取り組み、学習や生活の場面で求められる身体の動作を身に付けることができる。
- ③学級で、両手を協応させたり、目と手を協応させたりすることで、学習や生活の場面で必要な動作を行うことができる。

◎内容 児童・生徒に、一連の作業への集中力や持続力を高めるための指導

○課題 作業への集中力や持続力

・指導目標例

- ①個別指導で、両手の協応や目と手の協応に関する学習に取り組み、学習や生活等で必要とされる動作や作業について、集中しながら正確さや速さ、持続性の向上を図ることができる。
- ②個別指導で、学習や生活等で必要とされる動作や作業について、環境や条件が変わっても、集中しながら正確さや速さ、持続性の向上を図ることができる。
- ③学級で、学習や生活等で必要とされる動作や作業について、集中しながら正確さや速さ、持続性を保ちながら取り組むことができる。

◎内容 興味をもっていることを生かしながら道具等を使って手指を動かす体験を積み重ね、巧緻性を高められるようにする指導

○課題 手指の巧緻性

・指導目標例

- ①個別指導で、興味や関心があることを生かしながら、道具等を使って手指を動かす体験を積み重ね、手指の巧緻性を高めようとするすることができる。
- ②個別指導で、手指について一つずつ動作を身に付け、徐々に身に付けた一つ一つの動作をつなげて連続して行うことができる。
- ③個別指導で、手指について手本となる動作や自分の動作を映像で確認するなどして、自ら調整や改善を図ることができる。



◎内容 障害の状態によって、身体の動きの面で、関係する教科等の学習との関連を図り、目と手の協応した動き、姿勢や作業の持続性などについて、自己調整できるようにする指導

○課題 目と手の協応した動き、姿勢や作業の持続性などの自己調整

・指導目標例

- ①個別指導で、興味や関心があることを生かしながら、道具等を使って手指を動かす体験を積み重ね、手指の巧緻性を高めようとすることができる。
- ②個別指導で、教科等の学習をする上で、必要な目と手の協応した動きや、姿勢や作業の持続性などについて、自己調整する方法を理解することができる。
- ③学級で、教科等を学習する上で、必要な目と手の協応した動きや、姿勢や作業の持続性などについて、自己調整することができる。

## 第6節

### 6 コミュニケーション

(1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること。

◎内容 人とやりとりする楽しさを味わわせ、コミュニケーションをとろうとする意欲を育てる指導

○課題 コミュニケーションをとろうとする意欲

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と自分の興味や関心のある活動をする中で、人とやり取りをすることや人と通じ合う楽しさを感じることができる。
- ②個別指導や小集団指導で、教員や友達との相互的にやり取りをする基礎的なコミュニケーションの方法を知り、身に付けることができる。
- ③学級で、身に付けた基礎的なコミュニケーションの方法を活用し、教員や友達と相互的なやり取りをすることができる。

◎内容 話す人の方向を見るなどの、話を聞く態度を身に付けさせる指導

○課題 話を聞く態度

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員の言葉掛けに視線を合わせるなどの聞く学習を通して、聞く姿勢を身に付けることができる。
- ②小集団指導で、教員の全体に向けた説明や指示を聞き理解した上で、学習や活動に取り組むことができる。
- ③学級で、教員の全体に向けた説明や指示を聞き理解した上で、学習や活動に取り組むことができる。

6

コミュニケーション

◎内容 他者と相互交流する際に必要なマナーや技能等の基礎的な力を身に付けさせる指導

○課題 他者と交流する際のマナーや技能

・指導目標例

- ①個別指導で、巡回指導教員と場面や状況における他者と交流する際に必要なマナーを理解し、基礎的な力を身に付けることができる。
- ②小集団指導で、身に付けた基礎的なマナーについての知識を活用し、他者と交流することができる。
- ③学級で、身に付けたマナーについての知識を活用し、学級で生活を送る際に適切に他者と交流することができる。

(2) 言語の受容と表出に関すること。

◎内容 視覚的な手掛かりを活用しながら相手の話を聞くなど、様々なコミュニケーションの手段を活用して正確にやりとりをすることができるようにする指導

○課題 様々なコミュニケーション手段の活用

・指導目標例

- ①個別指導で、話す人の方向を見るなど聞く姿勢を形成するとともに、絵や写真などの視覚的な手掛かりを活用しながら相手の話を聞くなど、様々なコミュニケーションの手段を理解することができる。
- ②個別指導や小集団指導で、相手の言葉や表情などから相手の意図を推測するなどの学習を通して、場面や状況における他者の感情に配慮して、伝えることができる。
- ③学級で、様々なコミュニケーションの手段を活用して話を聞くとともに、他者の感情に配慮した正確にやり取りをすることができる。

(5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること。

◎内容 周囲の状況に関する適切な情報を得たり、雰囲気を読み取ったりすることができるようにする指導

○課題 雰囲気を読むこと

・指導目標例

- ①個別指導で、相手の立場に合わせた言葉遣いや場に応じた声の大きさなど、場面にふさわしい表現方法を身に付けることができる。
- ②個別指導や小集団指導で、実際の様々な場面や状況に応じたコミュニケーションの方法を知り、身に付けることができる。
- ③学級で、他者との会話の内容を把握するとともに周囲の状況を読み取り、状況に適した受け答えをすることができる。



◎内容 状況が変化した場合に、柔軟で適切な対応ができるようにする指導

○課題 変化への柔軟で適切な対応

・指導目標例

①個別指導で、生活の様々な場面や状況が変化した場合の、適切に対応する方法を理解できる。

②小集団指導で、学習や活動の状況が変化した場合に、柔軟で適切に対応することができる。

③学級で、学習や活動の状況が変化した場合に、柔軟で適切に対応することができる。

## 第6節

### 6

### コミュニケーション